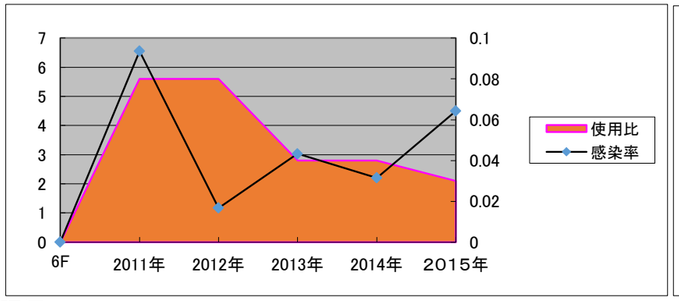
2015年 中心静脈カテーテル関連感染症サーベイランス結果年間比較

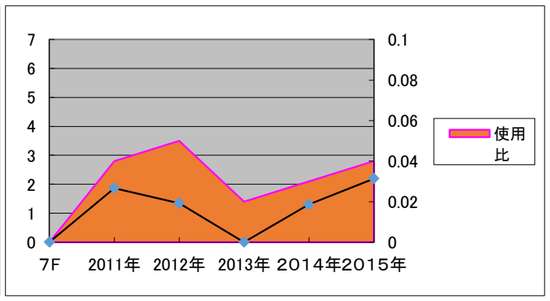
あおもり協立病院
院内感染対策委員会
2015年12月

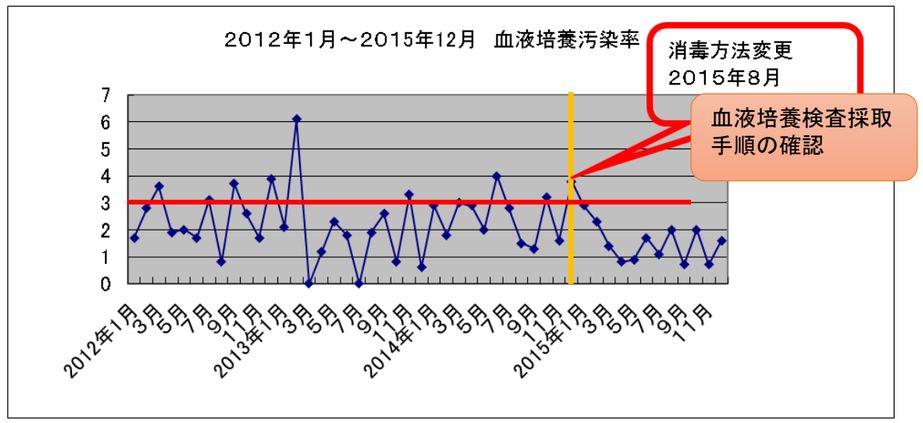
1．実施場所：６・7F
2．実施期間：2011年1月～2015年12月
3．方法：サーベイランス計画書に基づき、データ収集し標準の診断基準に基づきデータを算出する
4．計算方法：感染率：感染数/デバイス使用日数×１０００　②デバイス使用比：デバイス使用日数/入院患者延べ日数
5．年間の平均　　50%タイル値　使用比：　0.42 感染率：6

6F	2011年	2012年	2013年	2014年	２０１５年
感染率	6.55	1.17	3.03	2.2	4.5
使用比	0.08	0.08	0.04	0.04	0.03

7F	2011年	2012年	2013年	２０１４年	２０１５年
感染率	1.87	1.34	0	1.3	2.2
使用比	0.04	0.05	0.02	0.03	0.04







評価

今年度は例年より使用比が低下している傾向にある中で、感染率の上昇が目立った。症例については手順の遵守（ルート交換、ドレッシング交換）がされていなかった事例もあり、手順の確認を行った。QI事業では、中央値が3.61ということでそれからも高い状況にあった。
今後、手順の確認を行い経過をみていきたい。
血液培養検査の汚染率については、消毒液変更と手順確認後低値を推移している。その結果、感染症の早期評価、治療に貢